

G-10

きんらくじ
金楽寺



奈良時代の遣唐使で学者・政治家の吉備真備(きびのまきび)が、ここに「錦楽寺」を造営したことが地名の由来と伝えられます。奈良時代からすでに集落があったことを示す「金楽寺貝塚」があり、近年の調査で貝類や獣骨が発掘されました。

I-10

じょうこうじ
常光寺



この地域の浄光寺が地名の由来といわれます。浄光寺は、真言宗の弘法大師空海がここに立ち寄り創建した、との寺伝があります。南北時代を描いた「太平記」の康安2年(1362年)8月16日条に「浄光寺ノ要害」として寺名が登場します。

I-10

こうたいじんじや
皇大神社



太陽の神という天照(あまてらす)大神をまつる神社。浄光寺創建の時に弘法大師空海がまつったと伝えられます。市の保護樹林に指定された大木の下で、幼稚園児の元気な声が響きます。

【オールマイティー】
【引きこもりの元祖】

H-9

おだ
小田



明治時代、下坂部にあった小墾田(おばただ)簡易小学校の東に村役場を開設。この頃から「小田」の地名が登場します。金楽寺貝塚や、京につなぐため開削された神崎川、その玄関口だった神崎、漁港で栄えた長洲浜など、歴史の宝庫です。

G-10

にしながす
西長洲



神崎川の川口から長く伸びた砂洲地帯で、長洲浜と呼ばれていました。弥生時代から漁民が住み、奈良から平安時代に東大寺猪名荘(荘園)として繁栄。11世紀ごろには京都の賀茂社が魚介類を求めこの辺りに長洲御厨を置いたことから、東大寺と賀茂社との支配争いが続いたそうです。

I-11

くしせくまのじんじや
杭瀬熊野神社



境内「子安の池」の水を飲めば安産する、との伝承があり、神社にお参りする人が多いそうです。10月11日には、平成4年に40年ぶりに地元の手で復活したお神輿が、商店街や2.5ある全町会を練り歩きます。
【安産子育て】【家内安全】

I-11

くしせ
杭瀬



平安後期に神崎川河口の砂洲の開発時に、文字通り「杭」を打ち並べて「瀬」が作られたことが由来と考えられます。当時の杭瀬荘(荘園)は、堀河流藤原氏の所領。鎌倉時代に東大寺領長洲荘と浄土寺領橋御園が杭瀬の領有権を巡って争ったそうです。

J-10

いまふく
今福



鎌倉時代は、神崎川河口なので河尻とも呼ばれた西国と畿内との水運の要所。この地に平清盛の信頼の厚かった貴族、藤原邦綱の別荘「寺江山荘」がありました。船から直接邸内に入れる寝殿造りの建物で、多くの貴人が訪れたと伝えられます。

H-11

にのつぼ
二ノ坪



「二ノ坪」等の地名は、昔の土地区画の制度「条里制」(横が条、縦が里)に由来すると一般的に言われています。尼崎市にもいくつか「式ノ坪」という小字がありました。

H-11

うらかぜ
浦風



古くは源義経が長洲・大物の浦から船出したと言われるゆかりの地「琴の浦」はこの付近だったと推察されます。1960年に小学校の名を付ける際、この「浦」と、新風を吹き込み喜びと希望を育む「風」を組み合わせ浦風小学校となりました。

J-11

さもんどがわ
左門殿川



その昔、神崎川を通る度に租税がかかりましたが、これを何とかしようと、官職名が「左門」、後に江戸城を築城した戸田氏鉄が、江戸初期に神崎川と中島川を結ぶ水路を作りました。地域の人はこのことを感謝し「左門殿川」と呼ぶようになった、そうです。

お立ち寄り



杭瀬商店街
豆匠 宮島庵



阪神杭瀬駅の北に広がる商店街。宮島庵の近松豆腐は有機大豆と天然にがりで美味。

06-6481-2673